

## 事 業 報 告 書

1 支 援 团 体 名	九州建設技術フォーラム実行委員会									
2 事 業 名 称	九州建設技術フォーラム 2020									
3 実 施 日 時	令和2年 10月20日～21日									
4 実 施 場 所	福岡国際会議場									
5 事業目的、内容及びその効果	<p>(事業実施状況・内容)</p> <p>九州建設技術フォーラムは、新しい建設技術の開発・活用・普及の促進をより効果的に図るため、「産」「学」「官」それぞれが新技術の開発・活用の取組みについて情報を発信し、「産」「学」「官」で技術情報のプレゼンテーションや展示、意見交換会等の形をとりながら連携を深め九州のさらなる建設技術の発展を目指すものである。</p> <p>今年は、メインテーマの「次世代技術で築く持続可能な未来社会～建設技術の飛躍的な向上をめざして～」を踏まえ、基調講演ではAI等の基盤技術研究で知られる富士通株式会社の渡部勇氏に講演いただいた。</p> <p>また、ブース展示は全体で62社・機関で出展技術数は87を数えた。プレゼンテーションには29社・機関が参加した。</p>									
6 参 加 内 訳	<p>(事業実施効果)</p> <p>今年の開催で特筆されるのは、新型コロナ感染拡大防止対策である。接触による感染リスクを回避するために、来場者の受付をWEBによるリモート受付にしたのをはじめ、基調講演はWEB活用のライブ配信を実施。また「三密」回避の観点から、多目的ホールのブース設置数及び入場者数、基調講演やプレゼンテーション会場の入場者数を従来の5割程度に抑えたほか、QRコード受付、サーモグラフィ検温など様々な感染防止対策を講じた。その結果、感染者は発生しなかった。</p> <table> <tr> <td>総人数</td> <td>2,342名</td> </tr> <tr> <td>(1) 主催者参加</td> <td>82名</td> </tr> <tr> <td>(2) 日本人参加 ((1) を除く)</td> <td>2,260名</td> </tr> <tr> <td>(3) 外国人参加 ((1) を除く)</td> <td>名</td> </tr> </table>		総人数	2,342名	(1) 主催者参加	82名	(2) 日本人参加 ((1) を除く)	2,260名	(3) 外国人参加 ((1) を除く)	名
総人数	2,342名									
(1) 主催者参加	82名									
(2) 日本人参加 ((1) を除く)	2,260名									
(3) 外国人参加 ((1) を除く)	名									
7 今 後 の 方 針	新型コロナ感染状況にもよるが、来場者の受付をWEBによるリモート受付、基調講演はWEB活用のライブ配信を実施する。また「三密」回避の観点から、の入場者数を従来の5割程度に抑え、その他、QRコード受付、サーモグラフィ検温など様々な感染防止対策を講じ、実施する予定である。									

委員長挨拶



基調講演



講演会場状況



プレゼンテーション状況



ブース展示場



コロナ対策（サーモグラフィー）

